

# 文化ファッション大学院大学 ファッションクリエイション専攻

## 2026 年度入学試験 「小論文」 解答例および出題意図

### 【Ⅰ期 解答例】

テーラードジャケットとパジャマという二つのスタイルは、本来「公」と「私」、「社会」と「個人」を象徴してきた衣服である。前者は社会的役割や権威を纏うための服であり、後者は休息と自己解放のための服である。ところが現代では、その境界が溶けつつある。ジャケットをパンツにたくし込み、軽やかなシャツのように扱うスタイルは、装いの構えを解体し、権威の象徴をユーモラスに反転させている。一方で、パジャマを街に持ち出す行為は、「内なる時間」や「自分らしさ」を外に拡張する試みであり、親密さと自由の再定義でもある。そこには、社会の構造的変化と個人の感情的変化が交錯する、「権威から親密さへの転換」という時代感が読み取れる。

この時代感を踏まえると、2026 年春夏のファッションは、『インティメイト・パブリック』という概念で捉えられる。気候変動や AI 時代の不安を抱える社会の中で、人々は「親しみ」「共感」「温かみ」を持つコミュニケーションを求めている。公的な場にも私的な温かみを持ち込む時代であり、従来の「フォーマル＝外」「リラックス＝内」という二項対立が溶け、心の柔らかさを社会的表現へと転化するデザインが求められている。このコンセプトを具現化するデザインの方向性としては、「軽やかな構築」と「肌ざわりの親密さ」が鍵となる。例えば、テーラードの構造線を残しつつも、素材にはシルクやテンスルなどの肌に馴染む軽量素材を用いる。ジャケットの裾をパンツインしても自然に見える柔軟なカッティングや、ボタン位置・ラペル形状のずらしによって、フォーマルな枠組みの中に“くつろぎ”を潜ませる。また、パジャマ的要素としては、寝具やホームウェアに見られる細いストライプやパイピング、ガーゼのような柔らかな素材感を引用しながら、都市空間に調和する端正さを保つ。柄や配色は、ホームリネンを思わせるトーンをライトグレー、スモーキーベージュ、ミッドナイトブルーなどの都会的なニュートラルカラーで再構成することで、生活の肌ざわりと洗練のバランスを図る。さらに商品イメージとしては、「都市の中の休息」をテーマにしたコレクションが考えられる。オフィスからカフェ、リモートワークの合間までをシームレスにつなぐ『ソーシャル・ラウンジウェア』。ストリートにも通じる抜け感を持ち、冷却機能素材や透湿性素材を取り入れることで、40℃に迫る欧州の夏にも対応する。アクセサリーには、ハンカチのような多機能スカーフや、小物を包む柔らかな巾着風手提げなどを組み合わせ、「軽装での親密な社会性」を演出する。

このように、2026 年春夏のファッションは、形式や役割の“衣”をまといながらも、そこに「柔らかな社会性」「温かみのある公共性」を表現する方向へ進化していく。テーラードとパジャマの融合は、社会が求める“人間らしさ”の再起動を象徴している。(1184 字)

### 【Ⅱ期 解答例】

日本の繊維産地の現状が示すように、伝統産業はその土地に根ざした歴史や技術を体現する文化そのものである。「産業は文化」という視点に立つならば、地域の誇りや物語を次世代に引き継ぐことが重要となる。その上でクリエイターとしてどのような表現や創作活動を行うべきか、岡山県倉敷市児島地区のデニム産業を例に考えてみたい。

岡山県倉敷市児島地区では、江戸時代に始まった綿花栽培や明治以降の紡績業の発展、大正・昭和時代の足袋や学生服生産を経て、1960 年代に国内で先駆けてジーンズ生産が始まり、1973 年には国産デニムを用いた純国産ジーンズの生産・販売も行われた。これは、綿花栽培に適した気候と干拓地での栽培背景、そして伝統的な縫製技術が時代に合わせた新製品へと展開した結果である。その後、1990 年代以降のカジュアルウェア市場の変化やコロナ禍による低迷期もあったが、職人の技術力と高品質な素材を武器に、現在では世界的な評価を獲得し「ジーンズの聖地」として再興している。代表的なブランドである「MOMOTARO JEANS」は、日本の伝統技術やものづくりの精神を受け継ぎつつ進化させたデニムを追求している。深い藍色の生地や時代に左右されないシルエット、高品質な素材にこだわり、深い本藍染に着想を得た特濃-TOKUNO BLUE や伝統的な力織機を活用した製品を開発している。これらにより、世界 26 カ国で展開される「ジャパンデニム」の地位を確立し、安価な大量生産品とは一線を画す価値を

実現している。

このような地域に根差した事例から、クリエイターが果たすべき役割は、地域の歴史や技術を深く理解し、それを文化として捉えて表現や創作に取り入れることである。例えば、伝統的な素材や製法を現代的に再解釈して新たな作品や商品を生み出すことが考えられる。また、環境負荷を抑え資源効率を高めながら、従業員や地域社会にも配慮した持続可能な生産活動を行うことも重要である。このように地域固有の価値と持続可能性を強調することで、大量生産品とは異なる独自のブランド価値が創出できる。さらに、産地の技術や歴史、作り手の思いを作品に込め、その背景を積極的に伝えることが大切である。SNS や展示、工房見学やワークショップなどを通じて「誰が・どこで・どのように作ったか」を発信し、消費者と作り手が直接交流する機会を増やす。こうした取り組みにより、ユーザーは製品の向こうにある豊かな文化や物語を身近に感じるようになる。

以上のように、伝統産業を未来につなぐには、地域に息づく物語や技術を掘り起こし、デザインや表現の力で現代に蘇らせることこそがクリエイターとして貢献できることである。地域全体の価値を意識しつつ、次世代へ物語をつなぐ創作活動を誠実に実践していくべきである。(1156 字)

### 【全期共通 出題意図】

本問では、ファッションビジネスに対する問題意識と、それに基づく自らの考えおよび提案を提示できる資質を問う。具体的には、提示された文章から本質的な問題を抽出する「課題理解力」、自らの考えを筋道立てて構築する「論理的思考力」、ならびにそれらに基づき独自の視点から具体的な提案を論じる「創造力」を総合的に評価する。